

教育委員会主催教育シンポジウム

「大学生の数学力はいま

第一回 大学生数学基本調査の結果報告」

日本数学会教育委員会には1990年代から「大学生の学力が根幹から変容している」「信じがたい非論理的な答案を目にする機会が増えている」との会員からの声が多数寄せられてきました。日本数学会教育委員会では、大学教育を受講する上で大学生に必須と思われる基礎的な数学力の状況を把握するため、このたび第一回大学生数学基本調査を実施しました。

本調査を実施した機関の総数は48大学、調査を実施したクラスは90、調査を受けた学生総数は5946名でした。8月25日から27日の3日間、数学者10人を含む大学教員12名で記述式答案の採点を実施しました。採点したデータは、統計数理研究所に統計分析を依頼し、分析を行いました。その結果、大変憂慮すべき実態が明らかになりました。今回のシンポジウムはその詳細結果の報告会です。

ぜひ、多数の皆さまにご参加頂きますようお願いいたします。

日時： 3月29日(木) 14:30～17:00

場所： 東京理科大学11号館 11-1教室

プログラム

14:30～14:45 開会の挨拶（宮岡洋一 日本数学会理事長・東京大学）

14:45～15:55 第一回数学基本調査の結果報告
問題の紹介と出題意図（宇野勝博 大阪教育大学）
結果の統計的分析（尾崎幸謙 統計数理研究所）
結果の分析（新井紀子 国立情報学研究所）

15:55～16:15 日本数学会からの提言（坪井俊 東京大学）

16:15～17:00 質疑応答および討論（司会：竹山美宏 筑波大学）